

未来をつくる —— 各国優秀者スピーチ要旨（発表順）

1 「4年前と今」 ミャツ・ノー・キツさん

【ミャンマー代表】 Ms.Myat Noe Khit／学生

2 「子どもたちの安全」 ヌルラフィファ・ビンティ・ハジ・ハッサンさん

【ブルネイ代表】 Ms.Nurulafifah binti haji Hassan／学生

3 「やさしい言葉は世界を変える」 デニス・クリスチャン・コーパス・ロハスさん

【フィリピン代表】 Mr.Dennis Christian Corpuz Roxas／会社員

4 「学生は政治活動に参加してもいいか」 ポンパットチャラナン・アクソーンキットさん

【タイ代表】 Ms.Ponpatcharanan Aksornkit／会社員

5 「インドネシアのやさしい教育」 チャハヤ・ファティハー・デディ・プトリさん

【インドネシア代表】 Ms.Cahaya Fatihah Dedy Putri／学生

6 「カンボジアの塾」 ノアム・ダネーさん

【カンボジア代表】 Ms.Nam Dane／学生

7 「緑ちゃん」 ティー・ディック・アンさん

【マレーシア代表】 Mr.Tee Dik An／学生

8 「都会から地方へ」 タン・ウェイケットさん

【シンガポール代表】 Mr.Tan Wee Kiat／学生

9 「田舎に住む子どもの将来の夢」 サイ・トーさん

【ラオス代表】 Mr.Xay Thor／学生

このスピーチ発表会の動画を日外協ウェブサイトで無料公開中！ 講評を含む発表会の全容から、
個々人のスピーチまで全てご覧いただけます。ぜひご視聴ください。

（下記 URL もしくは右 QR コードから➡）

https://joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest/37th_nihongospeechhappyokai





ミャンマー

4年前と今

ミャツ・ノー・キツさん

新型コロナ感染拡大の始まった4年前から学校に通えなくなりました。もともと学校に行くのはあまり好きじゃなかったのですが、落ち込んだりはしませんでした。将来のことが不安で元気がない毎日を過ごしていました。



ある日、おばから電話があって、おばが教える日本語教室に誘ってくれました。何か外国語ができればきっと将来のためになるだろうからとにかくやってみようと、日本語を勉強することにしました。日本語はレベルが高くなればなるほど面白くなることに気付きました。現在はまだ中級ですが、翻訳の仕事が少しできるようになりました。上級まで頑張ろうと心に決めています。

私の父はコンピューターを使って映画や動画の編集をする仕事をしています。私も前からコンピューターを使う作業に興味をもっていました。登校できない今は時間があるのでチャンスだと思い、まずは父にコンピューターの使い方を教えてもらいました。それから、興味のあるグラフィックデザインをYouTubeで勉強しました。今はおじに教えてもらい、グラフィックデザインのソフトを何とか使えるようになり、おばのミャンマー語のテキストのデザインを作っています。おじには3Dモデリングも教わっています。とても面白くて、はまっています。

正直に言うと、学校に通っていた時より今の方が楽しめていると思います。

学校に通い始めた友達を見て、うらやましく思わないこともないですが、そう思うヒマがあったら、もっと勉強しろと自分で自分を叱るようにしています。学校に通って青春を楽しみながら教育が受けられる日々は、いつか私のところにも戻ってくるでしょう。でも、今はそんなことは気に留めず、興味のあることだけを学び続けています。

「今を楽しんで、今を学ぶ」、きっと今の私を将来につないでくれると信じています。



日本語はLIN日本語学校で3年間ぐらい勉強しています。日本のアニメや映画を見るのが好きです。人からは勉強熱心だと言われます。この機会を通じて、ASEANの国の皆さんと仲良くできればと思っています。



ブルネイ

子どもたちの安全

ヌルラフィファ・ビンティ・ハジ・ハッサンさん

皆さんの周りに若い子どもはいませんか？

看護学生で私がクリニックでインターンをしていた時、妊娠しているお母さんたちや、けがをした子どもたちがよく来ました。この経験から小さい子どもたちは活発で、危ない目に遭いやすいということを学びました。

私が4歳の頃、ひやっとするエピソードがありました。家族みんなで果樹園に行った日のこと。着いてすぐ、母は私をピクニックマットの



上に座らせて、いろいろなお菓子や飲み物を置きました。そして、背中を向けて近くで雑草を抜く作業を始めました。

しばらくすると、後ろからさくさくと音が聞こえたので、母は「あの子、なに食べてるのだろう」と思ったそうです。当然、私が口に入れたものは周りに置いてあったお菓子や飲み物だろうと思って、作業を続けていました。すると、後ろから「んーおいしい、おいしいねー」という私の声。「何がそんなにおいしいんだろう？」と気になった母は、私を見てすごくびっくりしたそうです。なんと私は木の枝を食べていたのです。当時、土まみれの木の枝は、私にとっては多分チョコレートみたいに見えたのだと思います。

子どもは好奇心が旺盛で、気が付かない間にすぐ大人が考えつかないようなことをします。先日、ネット上に広まった、シンガポールで起きた7歳の男の子のニュースを皆さん見ましたか？ この男の子は、おばあさんがちょっと目を離れた間に、バスの事故に巻き込まれてしまいました。もし近くにいた大人が見守っていたら、こんなことにはならなかったかもしれません。私たち大人には、小さな子どもたちの安全を守る責任があります。周りに子どもがいたら多くの大人が気にかけてあげる、子どもたち一人ひとりの安全が守られる社会になってほしいと思います。



ピパと呼んでください。ブルネイ大学の4年生で、看護学生です。日本語の勉強を始めてからもう6～7年たちました。初めてひらがなとカタカナを覚えた頃は、こんなにたくさんの人の前で日本語でスピーチするなんて想像もありませんでした。これから、より高い日本語能力を身につけるために頑張りたいと思っています。



フィリピン

やさしい言葉は世界を変える

デニス・クリスチャン・コーパス・ロハスさん

10年前、私は人の気持ちを考えないで言いたいことを言うやんちゃな子どもで、ある日、母と大げんかをしてしまいました。当時、母は妊娠していたのですが、その後、流産したと知らされました。その瞬間は、まるで時間が止まったかのようなようでした。私は自分がしたことを後悔しました。

戦争、虐待、不平等やストレスなど、世界の苦しみの原因の1つは、私たちの言葉が人にやさしくないからだと思います。人の気持ちを考えないで言いたいことを言ったら、人を傷つけストレスを与える恐れがあります。

母が流産してから3年たって、母に謝ることができました。母は「あなたのせいじゃないよ。原因はよく分からないけれど、神様には計画があるに違いない。だから、大丈夫よ」と私に言いました。その「大丈夫」の一言で、まるで背中から大きな岩が落ちたように感じました。言葉には人を傷つける力だけでなく、人を救う力もあることに気がきました。

言葉をやさしくすることが大事だと思います。日本語にはこんな言い方があるそうです。



「どいて」とだけひとこと言えばいい時に、日本人は「申し訳ございませんが、場所を空けていただけませんか」。あんまり長いので、私はびっくりしました。でもよく考え

ると、その長い表現からは、多くの日本人が礼儀正しく、やさしく言うため言葉を選んでいることが分かります。「ああ、やさしいなあ」と心が温かくなります。「どいて」は短くて便利ですが、それで人を傷つけないとは限りません。

日本人のやさしい言葉を使う習慣は、世界を変えるヒントになると思います。私は母を傷つけた経験を通して、自分の言葉で人を傷つけないようにしようと決心しました。言葉をやさしくすることによって、ゆっくりでも、少しずつでも、平和な世界への一步を踏み出したいです。 ■



デンショと呼んでください。24歳で会社員。和食と日本に興味があって、今一番好きなのは、牛丼とすき焼きです。あと、絶対一度食べてみたいのは「ウニ」。どんな味がたくさんの人に聞いたのですが、説明が難しいと言われて……。他には書道、音楽、人と話すこと。得意なのは歌とギターです。



タイ

学生は政治集会に参加してもいいか ポンパットチャラナン・アクソーンキットさん

皆さんは政治集会に参加したことがありますか。ここ数年、タイでは大勢の学生たちが政治集会に参加して、自分たちの意見を自由に述べていました。しかし今は「学生はまだ子どもだから」という理由で、大人たちから政治集会に行くことを禁止されています。私は学生も政治集会に参加したり、政治についての意見を述べたりする権利があると思っています。

理由は3つあります。1つ目の理由は、子どもの権利がユニセフの条約で保障されているからです。その条約では、子どものために4つの権利が保障されています。「生きる権利」

「育つ権利」「守られる権利」、そして「参加する権利」です。「参加する権利」とは、意見を述べたり、集まったりする権利のことです。大人たちには、私たちの意見を聞いてほしいです。



2つ目の理由は、民主主義の社会では自分の意見を言ったり、集会をすることが許されているからです。タイは民主主義の国です。学校でも生徒会の選挙があります。それに、18歳になったら選挙に行くことができます。学生には政治に参加する権利があります。

3つ目の理由は、自分たちの将来や明るい未来のために行動したいと思うからです。例えば、タクシーに乗った時、運転手さんが道を間違えたら、皆さんだったら、どうしますか？ 運転手さんに道が間違っていることを伝えますよね。社会が正しい方向に向かうよう、考えて行動したいです。

学生が政治に関心をもって、自由に意見を述べることができる環境が必要です。なぜなら、未来をつくるのは、私たち学生だからです。大人の皆さんには、ぜひ私たちの心からの声を聞いてほしいと思います。 ■



私のニックネームは「オム」、「オムライス」から来ています。現在22歳で会社員として働いています。高校から日本語の学習を始めました。好きなことはショッピングとダンス、そして豚骨ラーメンを食べること。得意なことはコミュニケーションです。このイベントに参加できて本当に光栄です。

インドネシア

インドネシアのやさしい教育

チャハヤ・ファティハー・デディ・プトリさん

「やさしい教育」とは、どのようなものだと思いますか？ 先生がやさしい？ それとも、授業がやさしくて宿題がない？

私が考える「やさしい教育」は、心遣いがある自由な勉強の仕方です。

「学びの解放」という言葉をご存じですか？ インドネシア語では「MBKM」と言って、学生が自分の大学だけでなく、他の大学でも興味のある授業を受けられるプログラムです。企業や海外でも教育を受けることができます。インドネシア政府はこのプログラムを2020年から実施しています。

私は大学を卒業したら日本で翻訳・通訳者として仕事をする夢をもっています。「学びの解放」のおかげで、インターンで日本に行くチャンスもあります。

しかし、このプログラムには、まだ幾つかの問題点が残されていると思います。

先日、私たち学生が後輩向けの「漢字の勉強会」を開いた際に、視覚障害のある女性が参加していました。彼女は近い距離からノートを見ないと字が見えないのに、やる気は誰にも負けていません。また、他の学科には足の不自由な

男子学生が、毎日車椅子を使って通っています。

この2人のような学生には、「学びの解放」のプログラムに参加するチャンスはあるのでしょうか。インドネシアのほとんどの大学では、予算の問題から身体の不自由な人たちのための施設がまだ用意できていません。

誰にも夢があります。夢をかなえるチャンスを与えるのが教育の役割だと思います。「やさしい教育」を実現するために、政府や大学、教育専門家などのコラボレーションの力で「学びの解放」を改善してほしいです。将来の教育が、より心遣いのある温かいものになるよう願っています。

そしてもう1つ大事なことは、家族や友達、私たちからのサポートです。差別のない、やさしい環境をつくりましょう。



20歳です。「チャハヤ」という名前は日本語で「光」という意味です。絵を描くことが好きです。日本語を勉強して、もう6年になりました。今は中部ジャワ州にあるスマラン国立大学で日本語教育を勉強しています。日本語がもっとうまくなりたいので頑張っています。

カンボジア

カンボジアの塾

ノアム・ダネーさん

皆さんは、塾で勉強したことがありますか？ 私は、カンボジアの塾は問題だと思っています。

私は中学2年生です。毎日、休まないで学校に通っています。でも、成績は良くありません。クラスでいくら勉強しても、試験の時はあまりできないのです。皆さんは私の頭が悪いからだと思いますか？

カンボジアの学校の先生は、だいたい塾の先



(注) インドネシア大会は2019年から日本語プレゼンテーション大会にリニューアル



生のアルバイトをしています。学生は塾で、安くても1時間に1000リエル(約36円)払います。ちなみに、1000リエルあったら、カンボジアではラーメンが1杯食べられます。

自転車置き場のお金もかかります。塾で3科目勉強したら、1日に4000リエルぐらいかかります。お金持ちはいいですが、私の家庭は貧乏なので無理でした。

学校と塾では授業の教え方が違います。学校では練習問題も応用問題もほとんどやりません。試験のときは、先生が塾で教えた問題を出すことが多いです。つまり、塾へ行かない学生は、いくら学校で一生懸命勉強しても、試験の問題が解けないんです。私の成績が良くなならないのは多分、中学校に入るまで塾に行けなかったからだと思います。

中学1年生のときに、田舎から町の学校に転校しました。新しい学校の校長先生は、「私はいつも学生たちの教育を第一と考えています。塾のお金がない人は私に相談してください。この中学校にいる間はお金を払わなくても塾で勉強できるよう、塾の先生に話します」。こういう校長先生に出会えるなんて、転校して本当に良かったです。

私は将来、この校長先生のように学生のことを考える先生になりたいです。日本語も頑張って、日本に留学したいです。日本の教育を学んで、お金がなくても、塾へ行かなくても、良い成績がとれる方法を見つけるために頑張ろうと思います。



ノアム・ダネーです。「いい子だねー」のダネーとおぼえて下さい。13歳で、プレアエヌカオサ中学校の2年生です。今まで3年ぐらい日本語を勉強しています。昔話の本を読むことが好きです。空手と柔道が得意です。



マレーシア

緑ちゃん

ティー・ディック・アンさん

両親の仕事の都合で、私だけ祖父と一緒に住むことになりました。祖父の背丈は2メートル7センチ。まるで大きい山みたいな祖父は怖くて、あまり好きではありませんでした。



ある日、祖父に呼ばれました。祖父の手には小さくてきれいな緑色のトカゲが乗っかっていました。「わぁ、かわいい！」手を出して触ろうとすると、祖父は私に、このトカゲを責任もって育てられるか聞きました。私は何も考えずに「うん、大丈夫！ 約束する」。

トカゲの名前は、「君の身体は緑色だから、緑ちゃんにしよう」。祖父に緑ちゃんのエサを聞いたら、「肉でも果物でも何でも食べる。ここには野菜しかないけど、後ろの畑から好きな野菜をとってきていい」。私がキャベツの葉をあげると、緑ちゃんは目を飛び出るくらい大きく開けて、夢中で食らいつきました。将来いつかお金持ちになって、たくさん肉をあげて、緑ちゃんを世界一大きいトカゲにしてやろうと

思いました。

2年後、両親が来た時に、「じいちゃんと緑ちゃんと一緒に住みたい!」と言うと、母は「緑ちゃんって誰?」。「母さんの後ろにいるよ」。「え? ぎゃあ!!!」。母の後ろには大きくなった緑ちゃんがありました。「絶対にダメ!!!」。「ええー。お願いだよ」。私は泣きながら頼みました。すると祖父が「一緒に住みたいと言ってくれてありがとう。気持ちはうれしいけど、じいちゃんには田舎が好きだし、緑ちゃんは大きすぎて町には住めない。かわいそうだよ」。

両親と一緒に住むようになってからは、休みの日はいつもアルバイトして買った肉を持って祖父の家に行き、緑ちゃんと一緒に遊びました。

大学生になった今でも、いつも緑ちゃんのことを考えています。緑ちゃんも絶対私のことを想ってくれていると信じています。私と緑ちゃんはいつもつながっています。もちろん、じいちゃんもです。



INTI College の学生です。去年の 10 月から、A to Z ランゲージセンターで日本語を勉強しています。今日でちょうど 1 年がたちました。趣味は 1 人で勉強するときに音楽を聴くこと。お気に入りの曲は、米津玄師先生の『LOSER』です。最近はギターとピアノのレッスンも受けています。



シンガポール

都会から地方へ タン・ウェイケットさん

6 月に青森の魅力を体験する 3 週間のプログラムに参加し、「青森産の食品をどうやってシンガポールで売るか」「どうやって青森への観光客を増やすか」など、青森の知名度を上げるための課題に取り組みました。

着いて 2 日目の夜、海沿いの小さな町に泊まると、空一面にまんべんなく輝く星、「都会とは違う、ここだけの魅力がある」と気付きました。

翌日、ホタテやイカを加工する企業を訪問し、工場見学や商品の売り方の検討



を行い、即売会に出店しました。私にとって初めての客商売。ずっと笑顔で元気にお客さまに接することがどれだけ大変かを痛感しました。それでも、地元の大学生や企業の皆さまのおかげで、即売会は無事終了。今でもこの商品は販売を続けています。この経験をもとに、シンガポールで販売できるようこれからも検討したいと思います。

この旅で一番印象的だったのは、ホームステイ期間中のとある 1 日。その日は自分のホストファミリーと自由に出かける日でした。朝はたけのこ掘りをし、昼は知り合いから、とれたての魚を 2 匹もらいました。午後は帰る途中で、お隣さんにたけのこをあげると、庭で育てた「ふき」をおすそ分けしてもらいました。結果として、晩ごはんの食卓に並んだ料理は、全部その日にとれたばかりの材料で作ったもの、私にはとても珍しい経験でした。青森の 100% 超えの食品自給率をこの身をもって体験することができました。人々はこういう物々交換を通じて、人と人とのつながりを築き上げている。地方だからこそできるのだと気付きました。

地方は、交通の便利さや店の種類の豊富さでは都会には勝てません。でも、そういうものが

ないからこそ、落ち着ける、大自然の魅力を堪能できるという、素敵な経験ができました。

皆さんも青森県を訪れてみてはいかがでしょうか？



シンガポール国立大学理学部数学科3年生です。趣味は料理で和食が好きです。肉じゃがとか豚汁などを食べたい時はYoutubeのレシピを参考にしながら、自分で作っています。日本の伝統文化にもすごく興味があって、特に神社と茶道が好きです。大学では茶道部に入っています。



ラオス

田舎に住む子どもの将来の夢

サイ・トーさん

私は田舎に生まれ暮らしていました。子どもの頃は、好きなことや趣味など考えられませんでした。高校生になっても、自分の夢も趣味も分かりません。

都会の大学で勉強を始めた時、先生に趣味は何かと聞かれ、驚きました。「趣味」の意味が分からなかったのです。何と答えたらよいのか分からなかったのです。実は自分について全く分かっていませんでした。どんなことが好き？ 将来の夢は？ 全然考えていませんでした。田舎で自然と触れ合っていた時間が長すぎて、都会に出てきても何をしたらよいのか分からなかったのです。しかも私は恥ずかしがりで、自信がなくて、新しいことが怖いと思っていました。

ある日、おじさんから「勉強は将来の役に立つ」と言われたので、「何を勉強したらいい？」と聞きました。おじさんは「好きなことを勉強すればいいけど、外国語がいいと思う」。さらに、おじさんにどうしたら自分の夢

をかなえられるのか聞いてみると、「世の中には人それぞれの夢があるが、自分の夢を知り、その夢をかなえるために心を込めて取り組むことが大切だ」という答えが返ってきました。

その時はおじさ

んの言葉の意味があまりよく理解できませんでした。でも、今はよく分かります。誰でも自分の夢がなければ何をすればよいのか分かりません。明確な目標がなければ進むべき道も分かりません。

自分が置かれている環境に適応するために、私は徐々に自分を変えていきました。他の人に遅れずについていくために、自分自身を成長させようと努力し、新しいことに挑戦するようになりました。

今、田舎に住む子どもたちには、将来の夢も、大人になったら何をしたいかも分からないと思います。

このスピーチが、豊かさからかけ離れた地方に住む子どもたちに、自分の夢を考えるきっかけになることを願っています。

目標に向かって頑張れ！



私は2000年生まれで、今年23歳になります。ラオス国立大学日本語学科の学生です。10月1日から4年生になりました。皆さまにお会いできてとてもうれしいです。好きなことは、サッカーを見ることやバドミントンをすることです。料理を作るのが得意です。



世界平和につながる道

〈講評〉 桜美林大学 名誉教授
馬越恵美子先生

キラキラとした若い力を感じて皆さんとても頼もしかったです。

今回のスピーチのキーワードを3つ挙げるとしたら、教育、優しさ、地方。皆さんのような日本を知る若い人たちが増えてほしいと改めて思いました。

世界中で分断が起こっています。戦争や紛争の原因にまでなっている、解決することが一番難しい課題だと言われています。分断はお互いをよく知らないことから起こります。だから外国に行ってみることが大事なのです。実際に行ってそこに住む人々と触れ合うことによって、外国はただの地図上の国ではなくなる。人々の息吹を感じることが世界平和へとつながっていくのではないのでしょうか。



発表者一人ひとりに向けユーモアを交え温かくコメントし、会場を沸かせた馬越名誉教授

日本語スピーチ発表会は今回で37回目。数々の荒波を乗り越えて、若い世代の人たちによる国際交流が続いてきた意義は大きいと思います。まずは50回、さらには100回と続いていくことを期待しています。世界は良くなるに違いありません。

発表者の皆さんたちが、世界平和を念頭にますます活躍することを願っています。 ■

(まごし・えみこ)

同時通訳、東京純心女子大学教授、NHK ラジオ英会話講座講師等を経て現職。博士（学術）。『ダイバーシティマネジメントと異文化経営』など著書多数。講演や執筆のほか、英語落語、ジャズボーカルなど幅広く活動。異文化経営学会会長。

心が温まる思い



ASEAN 日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業
コーディネーター
日外協 国際人事センター主幹
上戸道夫 (かんべ・みちお)

まずは、今回のプログラムに参加してくれた各国の若者たち、また彼ら・彼女らを選出した ASEAN 各国の日本語スピーチ・コンテストを開催する諸団体の皆さま、加えて、日本でのプログラム実行にあたってご指導、ご協力をいただいた皆さまに心より御礼を申し上げたい。

今年は、ASEAN10カ国のうち、スピーチ・コンテストが開催されなかったベトナム以外の9カ国から9人の皆さんを迎えた。いずれも各

国の日本語スピーチ・コンテストで優秀な成績を収めた皆さんである。日本を初めて訪問した方がほとんどだった。それなのに、対応している私が、皆さんが日本語を母国語としないことを忘れるくらい、日本語のレベルが高いことには、心底感心した。

日本語の勉強を始めた動機では「日本のアニメを原語で見たかった」という声を多く聞いた。ビートルズを聞いて英語を勉強していた自分の若い頃を思い出す。日本のエンターテインメントが、外国の若い世代に同じような影響力をもっていることを改めて実感し、いささか誇らしく思ったりする。

10月16日から21日までの公式プログラムでは、日本の歴史と現在を体感してもらえたら、



お台場のガンダムと(16日)
アニメが日本語を学ぶきっかけに
自由行動で秋葉原に行く人も



活版印刷でのしおり作り体験
(17日、凸版印刷 印刷博物館)



江戸文化を見学
(17日、江戸深川資料館)



かつお節削りを初体験
(18日、味の素川崎工場)



日本文化の中でも
和食は大人気



国立能楽堂で能を観劇(18日)



未来の車をイメージ体験(19日、パナソニックセンター東京)



駒沢公園で紅葉狩り(20日)



苦手な漢字も一生懸命書きました！
(20日、早稲田大学 国際学生友好会
との日本文化体験)



みんな大好きディズニーランド！(21日)



という思いから、江戸文化の紹介や伝統芸術で
ある能の観劇、座禅を体験する一方、日外協会
員企業を訪問、世界的な展開を進める各社から
最先端の技術・製品についてご紹介いただいた。

それぞれの参加者から、「一生の思い出」「日
本に留学したい」といった感想を聞かせても

らった。さらに、「日本語を使う仕事を見つける」
と決意を表明する声もあり、このプログラムが
ASEAN 各国と日本を結ぶことに、いささかなり
とも貢献できたか、と心が温まる思いがした
1週間であった。

(写真は参加者の LINE グループから)